

まつ まえ け でん どう じゃく だい が けん
松前家 伝 銅雀台瓦硯

■指定年月日平成21年3月26日
 ■所在地／松前郡松前町字神明30番地
 ■所有者／松前町



銅雀台瓦硯(表)



銅雀台瓦硯(裏)

瓦硯に附す、文禄3年(1594)に記された『麒麟硯記』によれば、「国医半井春蘭なるものが正徳年中(1506～1521)に明(中国)に行き名医に入門した。仲の良かった梅屋先生から日本に帰るときに銅雀の瓦硯が贈られた。」と記されている。

正保3年(1646)に松前家5世慶廣の子景廣が記した『新羅之記録』には、この瓦硯の記載が無く、11世邦広が箱書きを記したのが享保15年(1730)で、邦広は箱書きに由来を記していない。

さらに、松前廣長が安永9年(1780)に著した『福山秘府』によれば、文明17年(1485)の条に「傳云、其歳、北夷出瓦硯。」とあり、この年に樺太から伝わったとされる。

また、別の巻物は、寛文9年(1669)が1通、享保3年(1718)が4通、享保4年(1719)が1通、そして、天保15年(1844)が1通の、合計7通の文書が組まれて1つに構成され、それぞれ識者が松前家にある銅雀硯を賛美し、このころ松前家に伝わったことが判る。

瓦硯は陶質で硯下部の刻字に、洪武辛未(1391)9月9日と刻まれている。この資料は、松前藩の北方交易を知る上で重要である。